

## 鎌倉淡青会公開セミナー（第一回）の結果報告

皆さまのご協力により7月30日に第一回公開セミナーを無事に終了しました。これを機会に公開セミナーの開催経緯と当日の概況を報告いたします。

### 1. 公開セミナーの主旨と開催までの経緯

年初の鎌倉市会合で長谷川さん（現会長）と吉田さん（現副会長）が円覚寺管長様に公開セミナーの件を提案したところご賛同をいただき、開催に向けた活動を開始しました。

4月に鎌倉淡青会幹事会で10周年記念行事の一環として社会貢献目的の「公開セミナー」を開催することが決定し、早速、担当メンバー（金子、小川、多田、飯沼、後から下嶋、蜂巢が参加）らで円覚寺と相談しながら公開セミナーの構想・手順を次のように固めました

\* 本年7月～11月まで（合計5回）毎月月末火曜日に開催する。

場所は円覚寺集会室借用

\* 市民一般が参加して学び楽しめるようなテーマを選定する。

（三金会の話題からから適当なテーマをピックアップ）

\* 鎌倉淡青会の懐具合は苦しいが、社会奉仕の観点から参加費は無料とする。

（お願いした会員は手弁当にもかかわらず講師を快諾していただいた。）

\* 参加者募集のために、鎌倉市の広報誌（萌など）に掲載、

またチラシ1000枚印刷して、鎌倉市周辺の市町役所にまで配布。

### 2. 準備・リハーサル

当初は50名程度の参加者を想定していましたが、鎌倉淡青会会員の皆さまのロコミや初回講師の学生時代の友人らの呼びかけによりトータル120名（内、淡青会会員および家族は35名）の参加申し込みとなりました。

また会場の円覚寺宗務本所2階集会室（畳敷き）を椅子席とするなど、設営と運営には朝比奈教学部長さま、内田一道和尚さまにたいへんお世話になりました。

7月中旬からは大勢の会員協力による本番リハーサル、開催前日にも会場設営などなど、準備万端整えたつもりでしたが、本番では何が起こるか心配でした。（結果は杞憂に終わりました。）

### 3. 当日の状況

当日は早朝から参加者が続々肅々と入場し、定刻の10時までに120名の参加者が会場を埋め尽くしました。(参加者は60歳代から70歳代が中心、男女半々。この世代の日本人の秩序ある行動には誇るべきものを感じます。)

10時ジャスト長谷川会長のあいさつの後、横田南嶺老大師様から「師と仰ぐ松原泰道老師は101歳まで現役で学ばれていた。佐藤一斎の「言志四録」によれば「小にして学ばすなわち壮にして為すこと有り、壮にして学ばば即ち老いて衰えず、老いて学ばば即ち死して朽ちず」とのお言葉で、学ぶことの大切さを伺い、おわりは「毒にも薬にもならないあいさつ・・・」とのジョークでまとめられたので、会場の堅い雰囲気は少しほぐれました。

第一回のセミナーは山崎和男広島大学名誉教授の「毒にも薬にもなる薬草の話」で、大まとめにしてみると次の通りです。

\* 普通に見かける草花にも毒性の強いものがあり、その中から素晴らしい薬が開発される。

\* どんな薬でも飲みすぎれば毒になる(クスリはリスク)、  
用量反応曲線の意味を十分に理解してほしい。

ユーモア交じりの山崎さんの講義について参加者からは「化学式の紹介など専門的なお話でしたが、とても興味深く新鮮だった」との評価(アンケート)でした。

その後の様ざまな質問にも、少年時代から野山を歩き座右の銘は「我が師は自然」の山崎さんから蘊蓄のある回答をしていただき、当初意図した公開セミナーの雰囲気が形成できたように思いました。

#### 4. おわりに

第一回は物珍しさもあつてか盛況で、ほとんど問題なく終了することができました。会場の後片付けも会員以外の参加者から自発的にお手伝いいただくなど大変スムーズだったと思います。

11月まであと4回のセミナーがあります。これからも皆様のご協力のほどぜひよろしく願いいたします。

(淡青会会員の敬称は“さん”で統一させていただきました。)

(文責：金子幹雄(昭39・工))

写真(安藤さん、吉田さん提供)



会場を埋め尽くした参加者



横田南嶺老大師様のごあいさつ



会場からの質問に答える山崎さん